

平成 20 年 12 月 20 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 20 年 第 11 回講話

皆さんおはようございます。先ほど論語の素読をして戴きました。大変熱気がありましたので、論語の解説を少し致します。

今日読んで戴いた中で私の好きな言葉は、為政第二 通二十です。

子曰く、吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従えども矩を踰えず。

十代で学問に志す。

二十代について、論語は何も言っていません。二十代は自由奔放です。何か悪さをして、そんなに世間から糾弾されるようなことはない。若気の至りということで、結構無分別な事をして許される年代です。

三十代になると自分の職業を確立し家庭を持つ。自立をする時期です。

四十代になると自分の先行きが見えてくる。体力にも先行きが見えてくる。そして自分なりにある程度腹を括って迷わなくなってくる。言い方を変えると、諦める年代です。

五十代は自分の体力の限界も見えてきます。何をしにこの世に生まれてきたか考える時代に入る。これが自分の生まれてきた使命であろうと思ひ至るのが五十代です。

六十代は耳順です。素直に相手のいう事に耳を傾けられる年代。まろやかに何でも話を聞いて、その中で良いものは良い、悪いものは悪いという対応ができるようになる年代です。

七十代になると自分のやりたいことをやりたいようにやって、世間様のルールからは外れない、非常に良い年代になると思います。しかし残念ながら、七十代になって自由自在に動ける人、体力が十分ある人は少ない。中斎塾の顧問の先生方をみると、皆、七十代で元氣はつつでおられ、それぞれが志を持っておられる。人間、志を持つと元氣なのだと感じます。

では、恒例の質問を致します。

「昨日一日嘘をつかなかった方、手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

嘘をつかないという事が日常生活に染み込んでくれば有難い。嘘をつかないというのは、大きな判断基準・行動基準になります。

「昨日寝る時に、良い日だったなと思って眠れた方、どれくらいおられますか」

(・・・沢山手が挙がる)

とにかく眠る時に“今日一日良かったな”と思って眠りについて戴くと、翌朝爽やかです。

もう一つ質問します。

「昨日一日、有難うと言ひ、有難うと言われた方はおられますか」

・・・結構多いですね。

「有難う」とは誰でも言いますが、「有難う」と言われるのは結構大変です。ポイントは「有難う」と言われたことを、良い一日だと思いきっかけにして下さい。

本年度の北関東フォーラムは今日が最後です。一年間を振り返って、尚且つ、中斎塾とはどういうものが考えました。規約を見直しましたら、目的が明確に書いてありました。「今世界は危機に瀕している。・・・」と書いてありました。規約を決めた当時はさほど切実感はありませんでしたが、今現実に危機に瀕していることは、実感で表れています。しかもこれからどんどん加速します。中斎塾フォーラムでは、今、世界は危機に瀕しているのだという現実認識を明確にもって、本質・大局・歴史という判断の三原則と総合的直観力を身に付けることが目的の大きな一つです。最終的に今学んでいる「足るを知る心」を身に付けて、自分で行動し、回りに啓蒙し、日本全体に提言をし、世界に広げていきましょう。・・・といった内容が、中斎塾フォーラムの規約の冒頭に掲げてあります。ですから時々規約を見直して戴くと良いと思います。

私は毎年暮れになると、自分自身に影響を与えたもの・大きな出来事は何かを考えて、10大ニュースを書きます。今年はその他に、一年間で有難かったと思うものは何か、考えてみました。

今年、有難いと思った事を若干申します。

・ 健康

身体の健康と、頭の健康です。健康でなければ、フォーラムにも出てこれません。頭の方も健康でなければ、ものが考えられない。ですから健康とは本当に大事だと感じました。私が師匠と呼びした木内信胤先生が亡くなる前に、「怖いものは一つだけある。それは気が違うという事だよ」とおっしゃっておられました。

・ 中斎塾フォーラムをスタートさせた事

昭和 50 年 8 月 22 日に利根警備保障という会社を創業し 30 年経った所で、還暦を目前にして考えました。還暦は社会にお返しをする年代だと思っておりましたので、何をしようか一生懸命考えて、2 年間の準備を経て中斎塾フォーラムをスタートさせました。

中斎塾フォーラムをスタートさせて、「足るを知る」という事を毎日考えるようになりました。嘘をつかない毎日が送れるようになりました。実に爽やかです。又、知らない事が世の中に沢山あるとつくづく感じ、新しい事を知る喜びや、特に驚きが増えました。これが有難いなあとと思っています。

一つ一つ有難いことを挙げていましたら、感受性も変わってきました。又、家庭内の話で恐縮ですが、家内の私に対する扱いも変わってきたなと思います。会社の仕事だけやっている時は仕事漬けでしたから、話をしたり、一緒に動く時間がなかなか取れませんでした。中斎塾フォーラムを始めてからは、家内と話をする時間が増えました。旅をする時間も増えました。お互いに気配りをし合うようになって、家内に感謝する気持ちがより強くなりました。

このように「足るを知る心」を考えて、嘘をつかないようにやっていくことは、おまけも増えて良いなと思う一年でした。皆さんも今年一年を振り返って、有難いなと思うものを考えて、良いものがいくつも浮かんだら、良い一年だったと考えるとよろしいでしょう。

本日の [心に残る言葉] をご紹介します。

木内信胤先生の『國の個性』という本の中の一節で、先ほど規約で申しました総合的直観力の説明です。

“ どうかしてわかりたいといふ強い願望の下に身を置く ” といふことですが、さうしてあるうちに或る日突然、“ あっ ” と気が付いて夜が明けたやうになる。これが「直観力の働き」の模範例

『國の個性』木内信胤著 プレジデント社

皆さんにお聞きします。

「判断をする時に、漠然とでも結構ですが、判断の三原則（本質・大局・歴史）で考えれば良いと思っておられる方、どれくらいおられますか」

（・・・大勢、手が挙がる）

何か大きな問題があった時に、本質・大局・歴史の三つの視点でものを考える習慣をつけて戴くと有難い。それにプラスして、知識・見識・胆識で考えて戴くと更に良いでしょう。そういうものを踏まえたところで、総合的直観力が生まれます。

総合的直観力は、色々な知識が沢山入り、判断の三原則で判断を重ねて、尚且つ、何か心に引っかかっているものをずっと突き詰めて考え抜き、いっぱいになって溢れ出た時に発動します。安岡先生は「覚る」という言葉で表しています。漆黒の闇の中、外に出て海を見ていると、朝日が遠くの方から昇り始める。すると段々と回りの輪郭が見えてきて、太陽が上った時には、はっと、朝なのだと覚るような状況です。真っ暗な闇に太陽が昇ってきて、まるでもの見えなかった自分の心の中に光が差し込んで、分からなかったものがはっと気がつく。一瞬にして自分が別人に生まれ変わったような気分になってくる。そういうものを「覚る」という言葉で表しています。それが木内先生の総合的直観力だとお考え下さい。

前回のフォーラムでもお話ししましたが、安岡干支学に基づく来年の予測をお話します。是非、知識として入れて下さい。

今年はインフレとデフレのよじれ現象だと年頭に申しましたし、季刊誌「知足」1月1日号に書きました。

平成18年・19年は政治家の首が飛び、官僚の首が飛ぶ。偽装問題で世の中が乱れている。そういう年が続いて来た。今年はそれらの問題が更に酷くなり、国内外ともに問題が鼠算的に広がる。具体的には、今年は日本の国内だけに目を向けるのではなく、国外から色々な問題が押し寄せるから、それについても気をつけてみると良い。サブプライムローンや新型インフルエンザ、水、食糧の問題を意識している。

・・・という内容でした。この時は、サブプライムローン問題がこれほど酷くなるとは正直思っていませんでした。ただ、問題を起こす大きな要因の一つだと思っていましたので書いたわけです。

先日、『サブプライムローンを売った男の告白』という本を読みました。凄まじい売り方でした。お金が無くても、買いたいという意志さえあれば、足りない年収を水増しして審査に合格させるのです。そういうブローカーのような人達が、もの凄い勢いで広がって行

ったと書いてありました。

サブプライムローンを悪魔の花火と考えると、その火花が世界各国に飛び火していった結果、小さな国、特にアイスランドのような金融立国が今、10カ国くらい潰れかかっています。ヨーロッパの先進諸国も、その国を代表する銀行がどんどん国有化されています。大変な動きになっています。

日本にはこれから大きな津波がくると思います。まだ、アメリカで潰れたのはリーマンブラザーズ一つですから、これから本格的な津波が襲ってくるでしょう。

来年は己丑（きちゅう）です。「己」は、長い糸が絡まって解けない。「丑」は、牛がゆっくりと正しいと思う道を進み始めるという意味です。そう考えると、来年は出口の見えない不況のトンネルに入って、出られないまま走り続ける一年です。

先日、或る銀行の頭取とお話をしました。私は安岡千支学の観点から、その方は实体经济の視点から来年を予測しましたが、ピタリと一致していました。

その頭取曰く、

「来年は世界的な問題は解決しません。解決の手がかりが、一年かけて生まれれば有難いだろうと考えています。」との事でした。アメリカのビッグ3についても、意見は同じでした。頭取は、

「ビッグ3の板金工の年収が1千万くらいなのだから、回りの人達から見れば、妬みの対象です。自分たちが失敗をして倒産しかかっているのを、何故我々の税金で救済しなければならないのかという声が高いですから、どう見てもビッグ3のうち一つは潰さざるを得ないでしょう」と言っておられました。その通りで、私はビッグ3は潰れると思っています。ただ、クライスラーが吸収合併されてしまえば、多少形は違ってくるでしょうが、どう考えても、ビッグ3がこのまま行くわけがありません。

リーマンブラザーズの破綻の影響があれだけあるのですから、ビッグ3の一角が崩れればAIGにも波及します。AIGが破綻し、ビッグ3が破綻すれば、金融津波となって世界各国に襲いかかるでしょうし、潰れかかった国々は本当に潰れると思います。その結果アメリカは完全に基軸通貨国としての位置を失うし、ドルがドルとして通用しなくなります。地域の通貨で基軸通貨になりそうなものが地域券として生き残るでしょう。日本は基軸通貨にはなりませんから、孤立してゆくようになると思っています。

年内はまだ小さな津波が来たくらいです。来年に入ったら、本格的なものが始まると思っていますので、どう対処すればよいかお話しします。

日本の政府の対応は後手に回って、小手先・目先のものばかりだという感じがして仕方

がありません。アメリカは金利をゼロにして、量的緩和策を打ち出しました。アメリカもやる時はやるなという感じを受けました。同じような事を日銀がやりましたが、今更こんなタイミングに少しの利下げをしても効果はないと思います。言い訳の為にやったのだという印象を持ちました。麻生さんに至っては、例えば雇用問題についても、言うだけで具体的なプランニングは何も出て来ません。ひと頃、定額給付金の話で賑やかでしたが、何処かへ行ってしまいました。実効性の遅いものばかりです。ここ太田市でも、失業者に対して、1月から3月まで月14万円の給料で臨時職員として採用するという決定をした旨、発表しました。他の自治体でも似たような話が出ていますから、各自治体は意外と実効性のある事を打ちます。ただ内容をよく聞いて見ると、悲しいかな、その自治体のごく一部の手しか打っていないと感じます。

日本の政府は後手後手で、泥縄で、どうにもならないとつくづく感じます。そうなる自分自身で自分を守るしかありません。

日本人として日本の国に住んでいて、税金を納めて、何とか普通に生活ができるという所迄で日本の国家は有難い、という感覚で私は見えています。国に何かを依存するのは怖いと思います。どう考えても、自己防衛しかない。自分で自分の食べものを作るように動くしかないし、水も自分で確保するしかないと思っています。来年は、自分の口に入れるものはすべて自給自足できるような態勢へどんどん進めた方が良いと思っています。食べ物・飲み物・電気・・・人間が生きていく上に必要なもので国が関与しているものは皆、使えなくなるだろうと思っています。平成23年はかなり酷い状況になりますから、それまでの間に自給自足できるような態勢を進めておくべきだと思います。

酷い話ばかり申しましたが、そこで、福田代表幹事のお好きな「よく見れば はずな花咲く 垣根かな」という感覚が必要だと思います。忙しくても何かホッとするものに心を振り向ける気持ちのゆとりがあるかないだけで、人生ガラッと変わるはずです。良い絵を見る、感動する歌を聞く、良い書物に触れるといった時間を、毎日の中で5分でも10分でもよいから意識的に作る。自分の心が癒される時間・ホッとする時間を、来年から意識的に作っていかないと、心がどんどん荒んできて蝕まれてきます。

世の中が荒み、心が荒みますから、それに対抗するためには、より綺麗なもの・より美しいものに親しむ時間を意識的に作る事が、生き延びる大きな支えになると考えています。

自主防衛として今、私が意識的にしていることは、夜寝る時に、枕元に登山靴を置いて寝ています。地震で建物等の下敷きになった時を考えて、懐中電灯と笛を常に携帯しています。

来年は大地震が来る事を想定し、新型インフルエンザが来る事を想定し、金融危機の津波が来る事を想定しています。ですからそれに対しての対策を今打っていて、来年はそれを確立させるつもりでいます。来年早々のフォーラムでは、新型インフルエンザの具体的な対策をお話するつもりです。

以上で本日の講話を終了に致します。一年間どうも有難うございました。